

# 県民の方等へのエイズに関するメッセージ

岡山県では、県内でのエイズの感染防止と早期発見のため、関係者が協力して「おかやまエイズ感染防止作戦」に取り組んでいます。

このメッセージの内容を理解していただいた上で、多くの人に伝えてください。

令和5年6月

## ●エイズとはH I V（ヒト免疫不全ウイルス）に感染して起こる病気です。

H I Vに感染してもすぐにエイズ（後天性免疫不全症候群）を発症するわけではありません。風邪に似た症状が出ることもありますが、エイズ検査を受けなければH I Vに感染しているかどうか分かりません。

病気とたたかう抵抗力（免疫）が低下して、発症するまで数年～10年程度、自覚症状のない時期が続くことが特徴です。

エイズの感染経路は

- ①性行為（異性間・同性間）による感染
- ②血液を介しての感染（注射器具の共用など）
- ③母親から赤ちゃんへの母子感染

です。

ウイルスは、精液・膣分泌液・血液・母乳に含まれています。口腔や性器などの粘膜にこれらが直接接触しなければ感染することはまずありません。

## ●日本では約3割、岡山県では約半数が「いきなりエイズ」です。

2022年の国内のH I V感染者およびエイズ患者報告数は、884件（速報値）でした。そのうち、エイズを発症して初めて感染に気づく方（いきなりエイズ）は全国で約3割、岡山県では約半数を占めています。

早期発見のために、検査相談や、検査の機会を積極的に利用してください。

## ●H I V感染者は、20～40歳代の男性が中心です。

エイズ動向委員会の報告では、国内で新たにH I Vに感染したことが分かった人の約7割が同性間の性的接触によるもので、20～40歳代の男性の感染が多くなっており、岡山県も同様の状況です。

どの年代の方々にもエイズに関する正しい知識を持っていただき、積極的に検査を受けていただきたいと思います。

## ●性感染症に感染していると、H I Vに感染しやすくなります。

梅毒や性器クラミジア感染症などの性感染症にかかっているとH I Vに感染する確率が数倍から十数倍になります。

岡山県の2022年の梅毒報告数は、197名（男性：139名、女性：58名）で、現在の統計方法になってから最多の感染者となりました。人口100万人あたりの報告数は2021年に全国第4位となり、以後、ワースト10位以内を推移しています。男性は20歳代（32%）、30歳代（22%）、40歳代（23%）が多く、女性では、20歳代が半数以上を占めています。また、性器クラミジア感染症は、2022年においても、最も患者報告数の多い性感染症であり、無症状感染者も多い状況です。性感染症はオーラルセックス（口腔性交）でもうつります。多くの保健所では、性感染症の検査を実施していて、エイズ検査とあわせて無料且つ匿名で性感染症検査を受けることができます。

## ●日常的な接触で、感染することはありません。

H I Vウイルスは、感染している人の精液、膣分泌液、血液、母乳に含まれていて、粘膜や傷口から体の中にある程度の量が入ることにより、はじめて感染の可能性が生じます。

出血の可能性を考慮して歯ブラシやカミソリなどは共用しない方がよいですが、せき・くしゃみや握手などでは感染しませんし、鍋物を一緒につついたり、蚊による媒介などでも感染することはありません。

他のウイルスと比べても、H I Vの感染力は弱いです。

## ●エイズは予防できる病気です。

H I Vの感染力は弱いので、性行為以外では、日常生活の中でうつることはほとんどありません。

性行為でも、コンドームを正しく使用すれば、ほぼ100%予防することができます。ただし、直前につけるのではなく、性行為のはじめから終わりまでつけておく必要があります。

コンドームの使用は、梅毒やクラミジアなどの性感染症の予防にも役立ちます。

## ●H I V感染は、検査でしか分かりません。

エイズを発症するまで、自覚症状のない期間が数年程度続きます。検査を受ける以外にH I Vに感染しているかどうかを知る方法はありません。

## ●H I Vに感染していることを早く知ることが重要です。

いまのところ、エイズを完全に治す薬はありませんし、エイズを発症してしまうと治療が難しくなります。エイズ発症とは、23種類の指定された日和見感染症（正常な免疫力があればかからない病気）のいずれかを発症している状態をいいます。エイズを発症する前に、H I Vの感染を知ることが何より重要です。

医療の進歩によって、適切な治療を受けることによりウイルスが身体の中で増えないようにすることで、免疫力を回復することができ、エイズの発症を防ぐことができます。他の慢性疾患と同じように入院することなく定期的に病院に通うことで、コントロールが可能となっています。

## ●岡山県ではエイズ検査は7保健所・4支所と10拠点病院で受けられます。

保健所・支所では毎月定例日に無料・匿名検査をしています。結果は約1週間後に分かります。一部の保健所では、検査の後、約1時間で結果が分かる即日検査を実施しています。

拠点病院では月～土まで毎日どこかの病院で検査をしています。

検査料金は一律1,000円、結果は即日（1～2時間後）で分かります。

詳しくは、岡山県ホームページで [<http://www.pref.okayama.jp/page/detail-7846.html>]



【岡山県】

## ●検査結果は、秘密厳守。

医師や保健師などには守秘義務があり、検査結果が本人以外に漏れることはありません。

保健所での匿名検査結果は、必ずご本人に来所していただきます。電話等で問い合わせても、結果をお知らせすることはできません。

## ●HIVに感染していても、治療により仕事等も続けることができます。

HIV感染と診断されたあとも、早期に分かれればいろいろな治療方法が可能です。また、定期的に受診し決められたとおり服薬すれば、エイズの発症を抑え、仕事等も続けることができます。

## ●岡山県では、10か所の拠点病院で専門的な治療が受けられます。

エイズ治療拠点病院でHIV陽性者の方に専門的な医療を提供しています。

<拠点病院>

川崎医科大学附属病院（中核拠点病院）、岡山大学病院、独立行政法人国立病院機構岡山医療センター、岡山済生会外来センター病院、岡山赤十字病院、公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院、独立行政法人労働者健康安全機構岡山労災病院、独立行政法人国立病院機構南岡山医療センター、川崎医科大学総合医療センター、津山中央病院

## ●エイズは、性感染症の一つで特殊な病気ではありません。

周囲の反応への不安から、病名を告げられないまま病気と向き合っている方もいらっしゃいます。正しい知識を身につけ、思いやりと気遣いを持って接しましょう。

## ●HIV陽性者への偏見・差別をなくしましょう。

HIV陽性者への偏見・差別があると、陽性者の皆さんは、周囲からの偏見・差別を恐れ、なかなかまわりに本当のことを告げることができません。

HIV陽性者の皆さんが、偏見・差別を受けることなく過ごせる地域を作っていくために、エイズに関しての正しい知識を多くの方々に知っていただくことが重要です。

たとえば、知り合いやパートナーの方等にこのメッセージを伝えるなど、出来る範囲でのご協力をお願いします。

## ●企業訪問や出前講座を行っています。

H I V感染者・エイズ患者の発生報告の多くは20～40歳代です。岡山県では、この年代の方々がエイズに関する正しい知識を持ち積極的に検査を受けていただきたいと考え、その一環として企業訪問や出前講座を行っています。

職場の方へのメッセージ伝達や検査啓発カードの設置等にご協力ください。

## ●世界エイズデーとレッドリボンについて

世界的レベルでのエイズまん延防止と感染者・患者に対する偏見・差別の解消を図ることを目的として、12月1日が“World AIDS Day”（世界エイズデー）と定められました。この日を中心に世界各地でエイズに関するイベントなどが行われています。

レッドリボン（赤いリボン）は、エイズに関する理解と支援のシンボルマークです。つまり、あなたがエイズに関して偏見をもっていない、エイズと共に生きる人々を差別しないというメッセージです。このレッドリボンの意味を知り、レッドリボンを身につけることによって、エイズをみんなで考えることが大切です。